

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 芝田 昭博	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課	
所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先	設立年月日	平成15年4月16日	
電話番号	0185-32-2221	ホームページ	http://www.gao-aqua.jp/	
主な出資 (出捐)者	出資(出捐)者名		出資(出捐)額(千円)	出資(出捐)比率(%)
	秋田県		51,000	51.0%
	男鹿市		31,000	31.0%
	(株)プリンスホテル		10,000	10.0%
	その他4団体		8,000	8.0%
合計		100,000	100.0%	
設立目的	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図る。			
事業概要	水族館の運営			
事業に関連する法令、県計画				

2 H26年度事業実績(前年度評価を踏まえた取組内容を含む。)

前年度の反動もあり入館者数の落ち込みが見られたが、来館された方の滞在時間が30分以上延びるような状況も見られている。これは、新たな取り組みとして、体験型のイベントなど様々な取り組みを行った事によるものと考えている。アンケートなどでニーズの把握を行いながら、今後も、来館された方の感動度をあげる取り組みを継続していく。

<事業目標>

項目	区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
有料入館者数(千人)	目標	225	277	250	235
	実績	206	273	193	-
売上高(千円)※業務受託収入除く。	目標	335,033	401,096	375,100	368,965
	実績	323,405	428,774	316,262	-
顧客満足度指数	目標	80	98	98	98
	実績	97	98	97	-

3 組織

①役員数(H27.7.1現在) (単位:人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	H26	H27	H26	H27	
常勤	1	1			支給対象者 (H26年度) 2 人
内、県退職者					
内、県職員					
非常勤	4	4	1	1	平均年齢 65 歳
内、県退職者					平均報酬年額 (H26年度) 4,230 千円
内、県職員	1	1			
計	5	5	1	1	
内、県関係者	1	1			

②職員数(H27.4.1現在) (単位:人)

区分	H26	H27	正職員
	正職員	18	
内、県退職者			
出向職員			平均勤続年数 5.9 年
内、県職員			
臨時・嘱託	7	8	平均年収 (H26年度) 3,151 千円
内、県退職者			
計	25	23	
内、県関係者			

③取締役会回数

H25	4	H26	6
-----	---	-----	---

4 財務

①損益計算書 (単位:千円)

区分	平成25年度	平成26年度
売上高	484,791	378,619
売上原価	115,193	82,062
売上総利益	369,598	296,557
販売費及び一般管理費	367,035	292,483
人件費(売上原価含む)	120,369	108,603
営業利益(損失)	2,563	4,074
営業外収益	4,541	3,778
営業外費用	68	1
経常利益(損失)	7,036	7,851
特別利益		1,733
特別損失		5,287
法人税、住民税・事業税	1,469	1,006
当期純利益(損失)	5,567	3,291

②貸借対照表 (単位:千円)

区分	平成25年度	平成26年度
流動資産	236,860	233,775
固定資産	16,263	12,416
資産計	253,123	246,191
流動負債	48,445	38,221
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	48,445	38,221
資本金	100,000	100,000
利益剰余金等	104,678	107,970
純資産計	204,678	207,970
負債・純資産計	253,123	246,191

(単位:千円)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)

※中小企業退職共済制度へ加入している。

<主な経営指標>

項目	算式	平成25年度	平成26年度	H25-26増減
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	101.5%	102.1%	0.6%
流動比率	流動資産÷流動負債×100	488.9%	611.6%	122.7%
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	80.9%	84.5%	3.6%
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100			

5 県の財政的関与の状況

(単位:千円)

区分	平成25年度	平成26年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費			
指定管理料	56,017	62,357	男鹿水族館指定管理料
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 当該事業は、営利目的ではなく、観光振興を目的として事業が行われている。当社では、直営事業の利益を、水族館の運営（修繕、資料・展示物など）に投資しながら運営している。	A 会社法を順守して株主総会、取締役会を開催し、及び役員を選任を行っている。 人材的には、当初想定にない海外との接点が増える傾向にあるため、その分野の強化が必要と考えている。	C 前年度の反動もあり計画を達成できなかった。対応として、アンケートによる情報収集を強化して、ニーズに沿った企画の強化を行っている。また、アクセス面の問題についても、周辺施設などと連携して対応する。	A 黒字経営を継続しており、利益剰余金の積み増しも行っている。この利益剰余金については、今後発生しうる突発的な大規模修繕等のリスクや、展示改修などに備える意味でも十分なものが検証する必要がある。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 県関与の縮小に位置付けられている法人であるが、地元自治体や企業と連携を図り、男鹿地域の観光振興に寄与するなど一定の公共的役割を担っている。	A 取締役会は6回開催されており法定回数を満たしている。常勤の役員がおり体制は整っている。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。常勤の職員がおり体制は整っている。	C 有料入館者数、売上高及び顧客満足度も前年度実績を下回り目標値をクリアできなかった。特に有料入館者数が80%を下回ったことからC評価である。	A 単年度損益が黒字であり、累積債務もないことからA評価である。

III 外部専門家意見

・H26年3月期はひれあし' s館のオープンや仔グマ「ミルク」の効果で入館者数が回復したが、H27年3月期はその反動もあって売上高は減少となった。しかし、効率的なコスト管理により営業利益は逆に前期比+1,511千円と良化し、役員退職金（5,287千円）のような一過性の費用はあったものの、当期利益は黒字を確保した。

・利益剰余金はH27年3月末で107,970千円と期間損益の水準に比して十分であり、財務基盤は安定している。

・有料入場者数の減少を食い止めることが課題。他県の同業施設との連携等を生かして、一時的なアトラクションの集客効果に依存せずとも安定的な集客が見込める施策の検討が望まれる。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画では、民間委託が可能な事業を主たる事業とし非三セク化を目指す法人に位置付けられているが、公の施設の管理者として、県事業に一定の役割を持つことから、引き続きサービスの維持・向上を図っていくことが求められる。	A 適切であると認められる。	C 有料入館者数は、集客要因があった平成25年度を除けば、減少傾向にあり、それを食い止めることが大きな課題である。3園館連携など他施設との連携等を生かし一時的な集客効果に依存しない事業実施体制の確立が求められる。	A 適切であると認められる。売上高は減少するも営業利益は増加しており、引き続き、徹底したコスト管理による安定経営が望まれる。

○H27年度重点取組法人に 選定 する しない